

資 料

我孫子市平和事業・事業への協力者一覧

平成18年度主催事業

◎広島市平和記念式典への中学生派遣 8月5日(土)～8月7日(月)

◎派遣中学生の市民への発表会「広島を見た中学生と平和を考えよう！」

11月11日(土) 12時30分開場、午後1時から

けやきプラザ ふれあいホール 入場料：無料(整理券配布)

発表会内容

- ・広島市平和記念式典参加中学生の発表
- ・高野山小学校、白山中学校合唱部による合唱
- ・タレント「はなわ」さんが歌って語る
- ・連鶴を折ろう

出演者・スタッフ

- ・広島平和祈念式典参列及び派遣中学生報告会 参加者
- ・今井 瑞萌 (中学生報告会司会・平成17年度広島市派遣中学生)
- ・タレント はなわさん

◎丸木美術館所蔵「原爆の図」展示 11月7日(火)～11月12日(日)

けやきプラザ 第一ギャラリー

◎朗読劇「この子たちの夏」中学校公演

- ・湖北台中学校 2月13日(火) 中学2年生126人
- ・布佐中学校 2月20日(火) 中学1・2年生202人

●「この子たちの夏」朗読者

青山 純子	どんぐりどんぐら	中村 君代	どんぐりどんぐら
大格 萋子	〃	山内 やよい	〃
大野 敦子	〃	山田 睦子	〃
柿山 雅代	〃	吉海 智子	〃
京島 早苗	〃	金澤 智子	素語りの会
齋木 梅枝	〃	西村 篤子	〃
鈴木 真喜枝	〃	星野 知子	〃
寺田 美香	〃	宮川 良子	〃
中川 裕子	〃	吉田 真喜子	〃

平成19年度主催事業

◎広島市平和記念式典への中学生派遣 8月5日(日)～8月7日(火)

◎派遣中学生の市民への発表会「広島を見た中学生が語る 平和の尊さを！」

12月1日(土)午後1時開場 1時30分開演

けやきプラザ ふれあいホール 入場料：大人1000円 中学生まで500円

発表会内容

- ・広島市平和記念式典参加中学生の発表
- ・平和の祈り「ミネハハ」ハートフルコンサート

出演者・スタッフ

- ・広島平和祈念式典参列及び派遣中学生報告会 参加者
- ・鳥くん(永井真人)(派遣中学生報告会 総合司会)
- ・早野 優造(派遣中学生報告会司会・平成18年度派遣中学生)
- ・ミネハハ
- ・企画集団まなびいあびこ
- ・音響 高久 雅鼓

◎平和事業推進条例(案)の提言の提出 12月22日

平成20年度主催事業

◎広島市平和記念式典への中学生派遣 8月5日(火)～8月7日(木)

◎派遣中学生の市民への発表会「広島を見た中学生が語る 平和の尊さを！」

11月22日(土)午後1時開場 1時30分開演

けやきプラザ ふれあいホール 入場料：500円(中学生以下無料)

発表会内容

- ・広島市平和記念式典参加中学生の発表
- ・あびこ少年少女合唱団による合唱
- ・旅の音楽家 丸山祐一郎・こやまはるこ による「平和の風ライブ」

出演者・スタッフ

- ・広島平和祈念式典参列及び派遣中学生報告会 参加者
- ・鳥くん(永井真人)(派遣中学生報告会 総合司会)
- ・内形 優樹(派遣中学生報告会司会・平成19年度派遣中学生)
- ・中山 雅子()
- ・旅の音楽家 丸山祐一郎 こやまはるこ
- ・あびこ少年少女合唱団
- ・企画集団まなびいあびこ
- ・音響 高久 雅鼓

◎原爆写真パネルの展示 11月18日(火)～11月22日(土)

平成21年度主催事業

◎長崎市平和記念式典への中学生派遣 8月8日(土)～8月10日(月)

◎映画「ヒロシマナガサキ」上映 8月15(土) アビスタホール 入場無料

◎派遣中学生の市民への発表会「長崎をみた中学生が語る平和の尊さを！」

11月1日(日) 午後1時開場 1時30分開演

けやきプラザ ふれあいホール 入場料：無料

発表会内容

- ・長崎市平和記念式典参加中学生の発表
- ・白山中学校合唱部の合唱
- ・日本ユネスコ協会連盟理事長講演「世界平和を目指すユネスコ活動」

出演者・スタッフ

- ・長崎平和祈念式典参列及び派遣中学生報告会 参加者
- ・白田 愛(派遣中学生報告会総合司会・我孫子市平和事業推進市民会議委員)
- ・塚原 佑典(派遣中学生報告会司会・平成20年度派遣中学生)
- ・高木 佳枝()
- ・日本ユネスコ協会連盟理事長 野口昇氏
- ・白山中学校合唱部
- ・音響 高久 雅鼓

平成22年度主催事業(戦後65周年平和事業)

◎「我孫子から発信 平和への祈り戦争資料展」8月3日(火)～8月16日(月)

アビスタ2階第2学習室及び2階オープンスペース西側

●戦争資料提供者(五十音順)

秋田 彰平	阿曾 敏夫	阿曾 靖子
荒井 茂男	五十嵐 淑郎	今井 岩夫
今村 賢之助	上野 千代	海老原 仁市
大井 貞治	大岡 愛子	大森 ひろみ
小熊 きく	香取 定子	小池 美千
越岡 禮子	佐悠賀 コオ	塩田 憲子
篠田 まさ	城 千鶴子	水津 敦子
鈴木 和子	鈴木 正吾	鈴木 利恵子
関谷 丞一	染谷 克	高橋 八重子
高橋 明男	田口 源子	田中 茂夫
田中 良兼	谷島 昌司	千葉 忠

千葉 忠雄	寺田 太郎	都鳥 あき子
中野 大	中村 宏	野口 和男
人見 武	星野 七郎	本間 英夫
増田 よし	松永 久子	矢澤 あさ
柳澤 和子	渡辺 康子	渡辺 良一
和田 三千代		

※佐悠賀コオさんには戦争資料展で先着300名に配布したお手玉を作成していただきました。

◎広島市平和記念式典への中学生派遣 8月5日(木)～8月7日(土)

◎映画「GATE」の上映 8月14日(土) ①10:45～ ②13:10～

◎すいとんの食べ比べ 戦中・戦後と現代風のすいとんの食べ比べをする

8月14日(土) 12:00～各食先着100名

●すいとん調理者

高梨 英里香	第一小学校	金井 桂子	我孫子市消費者の会
鈴木 ありす	第二小学校	加藤 マリ子	〃
小川 貴教	根戸小学校	坂巻 道代	〃
川合 りお	新木小学校	重田 幸子	〃
野口 晴夏	〃	杉本 静子	〃
早坂 旭慈	〃	鈴木 雅子	〃
早坂 弘宇	〃	玉造 美枝	〃
石森 薫	並木小学校	寺田 久美子	〃
伊勢 利江	我孫子市消費者の会	村山 町枝	〃
遠藤 洋子	〃	和田 三千代	〃
大立 喜代子	〃		

◎派遣中学生の市民への発表会「広島を見た中学生が語る平和の尊さを！」

11月20日(土) 午後1時30分開場 午後2時開演

発表会内容

- ・広島市平和記念式典参加中学生の発表
- ・シンガーソングライター大野靖之氏によるコンサート
- ・白山中学校合唱部による合唱

出演者・スタッフ

- ・広島平和祈念式典参列及び派遣中学生報告会 参加者
- ・高木 佳枝 (派遣中学生発表会総合司会・第4回広島市派遣中学生)
- ・大屋 貴義 (派遣中学生発表会司会・平成21年度派遣中学生)
- ・今 和香菜 ()
- ・シンガーソングライター 大野靖之

- ・白山中学校合唱部
- ・音響 高久 雅鼓

◎「平和への祈り 小中学生平和ポスター展」11月16日(火)～11月21日(日)

●ポスター展 参加者

小学校

第一小	梅澤 歩	三和 杏果	第二小	小池 星奈	田中 千代乃
第三小	一色 菜穂	山内 雄太	第四小	齋藤 尚宏	長堀 政弘
湖北小	渡部 飛日	ジャマイル アラン	布佐小	伊藤 愛純	棚木 恵
湖北台西小	手塚 滯菜	石井 恵	高野山小	柏 七海	菊池 かれん
根戸小	谷原 彩音	原田 美沙紀	湖北台東小	今井 智大	久米 添友
新木小	石川 裕子	岡野 紗奈	並木小	阿部 莉々	下大澤 唯花
布佐南小	加瀬 葉澄	宮本 ちひろ			

中学校

我孫子中	美術部合作	湖北中	川邊 直子	長谷川 なみ	
布佐中	新井 春菜	湖北台中	美術部合作		
久寺家中	前野 陽	鈴木 礼稀乃	白山中	岸 奈津希	矢田部 有香

◎平和記念誌「我孫子から発信 平和への祈り」の発行(本誌)

◎平和への祈り～子どもたちの太平洋戦争～(対象:小学校高学年・中学生)の発行

●平和記念誌(我孫子から発信 「平和への祈り」)

表紙・挿絵 篠田 佳以子

略歴

- ・我孫子市美術協会理事
- ・墨雅会会員
- ・我孫子市市民講座講師

表-4 おはなしさんぽみち 大野 敦子

●共催事業(平成18年度～平成22年度)

我孫子市原爆被爆者の会

◎我孫子市平和祈念式典 手賀沼公園「平和祈念碑」前

◎「原爆写真と平和の折り鶴」展

(参加者の敬称略)

●平成18年度我孫子市平和事業企画運営委員会名簿

氏名	選出区分	備考
豊田 義信	公募の市民	公募委員
濱田 洋子	〃	〃
和田 三千代	〃	〃
大久保 明次	市民団体を代表する者	我孫子市原爆被爆者の会
根本 喜一	〃	我孫子市PTA連絡協議会
井上 薫子	〃	我孫子スカウト協議会
渡邊 陽一郎	〃	あびこ子どもネットワーク

●平成19年度我孫子市平和事業推進市民委員会委員名簿

氏名	選出区分	備考
今井 瑞萌	市内在住の高等学校の生徒	茗溪学園高等学校
大久保 明次	市民団体に属する者	我孫子市原爆被爆者の会
小池 誠	〃	我孫子市PTA連絡協議会
澁谷 芳久	〃	我孫子青年会議所
田口 正美	〃	前我孫子市PTA連絡協議会
武田 弘人	〃	我孫子市青少年相談員連絡協議会
張 紋明	〃	我孫子市国際交流協会
徳永 純子	市内の大学に在学する生徒	川村学園女子大学
星 宏幸	〃	中央学院大学
水津 洗一郎	市民団体に属する者	企画集団まなびいあびこ
和田 三千代	〃	我孫子市消費者の会

●平成20年度我孫子市平和事業推進市民会議名簿

氏名	選出区分	備考
今井 瑞 萌	市内在住の高等学校の生徒	茗溪学園高等学校
大久保 明 次	市民団体に属する者	我孫子市原爆被爆者の会
小 池 誠	〃	我孫子市PTA連絡協議会
澁 谷 芳 久	〃	我孫子青年会議所
水 津 洗一郎	〃	企画集団まなびいあびこ
田 口 正 美	市長が必要と認める者	前我孫子市PTA連絡協議会
武 田 弘 人	市民団体に属する者	我孫子市青少年相談員連絡協議会
張 紋 明	〃	我孫子市国際交流協会
徳 永 純 子	市内の大学に在学する生徒	川村学園女子大学
森 勝 信	公募の市民	公募
星 宏 幸	市内の大学に在学する生徒	中央学院大学
和 田 三千代	市民団体に属する者	我孫子市消費者の会

●平成21年度我孫子市平和事業推進市民会議名簿

氏名	選出区分	備考
阿 部 慎	市内の大学に在学する生徒	中央学院大学
今井 瑞 萌	市長が必要と認める者	成蹊大学
大久保 明 次	市民団体に属する者	我孫子市原爆被爆者の会
澁 谷 芳 久	〃	我孫子青年会議所
水 津 洗一郎	〃	企画集団まなびいあびこ
田 口 正 美	〃	我孫子市PTA連絡協議会
武 田 弘 人	〃	我孫子市青少年相談員連絡協議会
張 紋 明	〃	我孫子市国際交流協会
徳 永 純 子	市長が必要と認める者	市長が必要と認める者
白 田 愛	市内在住の高等学校の生徒	東葛飾高等学校
間 中 くるみ	市内の大学に在学する生徒	川村学園女子大学
深 山 恒 男	公募の市民	公募委員
弓 場 敏 嗣	〃	公募委員
和 田 三千代	市民団体に属する者	我孫子市消費者の会

●平成22年度我孫子市平和事業推進市民会議名簿

氏 名	選 出 区 分	選 出 区 分
今 井 瑞 萌	市長が必要と認める者	成蹊大学
大久保 明 次	市民団体に属する者	我孫子市原爆被爆者の会
渋谷 芳 久	〃	我孫子青年会議所
水 津 洗一郎	〃	企画集団まなびいあびこ
田 口 正 美	〃	我孫子市PTA連絡協議会
武 田 弘 人	〃	我孫子市青少年相談員連絡協議会
高 木 佳 枝	市内在住高校生	中央学院高等学校
張 紋 明	市民団体に属する者	我孫子市国際交流協会
間 中 くるみ	市内の大学に在学する学生	川村学園女子大学
深 山 恒 男	公募の市民	公募委員
弓 場 敏 嗣	〃	公募委員
渡 部 嵩 博	市内の大学に在学する学生	中央学院大学
和 田 三千代	市民団体に属する者	我孫子市消費者の会

用語の解説

注	用語	読み	解説
注1	日中戦争		日本と中国の戦争(1937～1945年)
注2	太平洋戦争		第二次世界大戦のうち、主として東南アジア・太平洋方面における日本と、アメリカ、イギリス、オランダ、中国等の連合軍との戦争。
注3	士官		兵を指揮する武官・将校
注4	兵卒	へいそつ	軍隊で最下位の兵隊・二等兵
注5	国家総動員法		日中戦争に際し、人的及び物的資源を統制し、運用する権限を政府に与える。 1938年制定の法律。総力戦遂行のため、国家の全ての人的・物的資源を政府が統制運営出来る旨規定。
注6	紀元二千六百年記念祝典		神武天皇即位を元年とし、「神国日本」を国民に浸透させるため、1940年に記念式典をおこなった。
注7	赤紙(召集令状)	あかがみ	軍隊に入る命令書。赤い色の紙の召集令状。
注8	武運長久	ぶうんちょうきゅう	戦いの場での幸運が長く続くこと
注9	学徒動員		学生を戦争に協力させるため、農村や工場で働かせた。
注10	艦載機	かんさいき	航空母艦からの飛行機
注11	機銃掃射	きじゅうそうしゃ	機関銃等で敵をなぎ払うように射撃すること
注12	焼夷弾	しょういだん	火炎や高温で人や建物等を殺傷・破壊する(油脂)爆弾。ナパーム弾。
注13	B29		アメリカの大型爆撃機
注14	双発		プロペラが二つある飛行機
注15	高射砲	こうしゃほう	敵の航空機攻撃から自軍を守る為の地上火砲。
注16	ヤミ市	やみいち	ヤミ取引の品物を売る店が集まった市場。
注17	パンパンガール		米兵相手の街娼
注18	赤線、青線	あかせん・あおせん	警察が管理目的で地図上に飲食街を青・赤の線で囲んだ事から呼ぶ。赤線は売春合法地区。青線はその隣接地。(非合法)
注19	そば杖		松葉杖のこと。
注20	傷い軍人	しょういぐんじん	負傷した軍人。
注21	南原 繁		政治学者。(1889年－1974年)東京帝国大学(現東京大学)の総長を務めた。東京大学名誉教授。アララギ派の歌人としても知られる。
注22	玉音	ぎょくおん	天皇の声。
注23	ポツダム宣言		1945年7月ドイツ共和国北部のポツダム市で、米・英・中・ソが日本に降伏条件を発表した宣言。
注24	零戦	ぜろせん	旧日本海軍の艦上戦闘機の通称。皇紀(神武天皇即位を元年)2600年登場のためゼロ式と呼ばれた。俊敏性・長航続距離を誇り、連合国に恐れられた。
注25	滂沱	ぼうだ	涙がとめどなく流れ落ちるさま。
注26	傀儡政権	かいらいせいけん	形式的には独立しているが、実質的には他国に操られている政権。
注27	五・五・三の比率		1930年ロンドン軍縮会議で、決められた軍艦の保有比率 米英各5、日本3

注	用語	読み	解説
注27	ABCD包囲陣		Aアメリカ B英国 C中国 Dオランダ4ヶ国によるもの。1941年に日本に対する貿易制限で石油が輸入できなくなる。
注28	皇軍	こうぐん	大日本帝国軍の美称。
注29	富国強兵	ふこくきょうへい	国内の経済発展を図り、軍事力を強化しようとする主張・政策。
注30	旧制中学	きゅうせいちゅうがく	1887年制定の尋常小学校修了者が行く5年制の男子学校。1941年に4年制に改変。
注31	大宮御所	おおみやごしよ	皇太后(皇后陛下)の御所。
注32	シベリヤに抑留	よくりゆう	第二次大戦末期、ソ連が中国東北部(旧満州)に侵攻、日本人(軍人・民間人)を捕虜とし、シベリヤで強制労働に使役した。
注33	岸壁の母	がんぺき	第二次大戦終了後、ソ連抑留から引揚船で帰る息子を岸壁で待ち続ける母。テレビドラマと歌がヒットした。
注34	女子挺身隊	じょしていしんたい	1945年、14歳～25歳の女子勤労奉仕団。1945年国民義勇軍に再編される。韓国での慰安婦とは全く別物。
注35	教育勅語	きょういくちよくご	日本の道德教育の根本として、明治天皇の名で発表された言葉。
注36	関東大震災		1923年9月1日、相模湾沖を震源とする大地震が発生、東京を中心に14万余の死者が出た。
注37	日支事変	にっしじへん	注132、注144 日本とシナ(中国)との偶発的軍事衝突。
注38	慰問袋	いもんぶくろ	戦地にある兵士を慰め士気を高める為、日用品や手紙を入れて送った袋。
注39	北投	ほくとう	台湾台北市の行政区名。
注40	警報	けいほう	戦争中、敵機の来襲をサイレン・ラジオで警戒警報や空襲警報として知らせた。その略。
注41	防空壕	ぼうくうごう	敵機の攻撃から避難するため掘られた地下施設。
注42	壕	ごう	防空壕を壕とも呼んだ。
注43	復員	ふくいん	戦時体制の軍隊を平時体制に戻し、兵員の招集を解除すること。また、兵役を解かれて帰省すること。
注44	総督府	そうとくふ	植民地等を統治するため設置された官庁。
注45	基隆港	きりゅうこう	台湾北部の拠点となる港。キールン
注46	リバティ		リバティ船の略。第二次大戦中米国がブロック工法で量産した規格型輸送船。1940年から短期間のうちに2600隻以上建造されたといわれる。
注47	内地	ないち	外地に対する内地。従来の日本本土以外を外地と称した。
注48	田辺港	たなべこう	和歌山県田辺市。舞鶴港と並んで引揚船が寄港した。
注49	DDT		殺虫剤。主に引揚者にふりかけ消毒した。
注50	コウリヤン		中国北部で栽培されるモロコシの一種。食料・飼料にされる。注137
注51	地下足袋	じかたび	直に土を踏むゴム底の親指だけが分かれている足袋。
注52	仙崎	せんさき	山口県長門市にある港。
注53	防空頭巾	ぼうくうずきん	空襲の際、火の粉・落下物から首筋・顔を守る綿入りの頭巾。
注54	台北駅	たいほくえき	台湾の台北市の鉄道の駅。

注	用語	読み	解説
注55	除隊	じょたい	軍人が兵役満了・病気等で軍を辞すること。
注56	大陸		中国大陸
注57	一担	ひとかつぎ	一人が担げるだけの量。持てるだけ。
注58	国策	こくさく	国家が目的を遂行するための政策。
注59	無蓋貨車	むがいかしゃ	屋根のない貨車。
注60	基隆	きーるん	台北から北へ50キロ。注39
注61	舢舨	はしけ	小さな船。沖合の大型船と岸壁を結び運行される。
注62	日僑	にっきょう	外国で生活する日本人
注63	触雷	しょくらい	機雷に触れること。
注64	大竹沖		広島県南西部
注65	戦時国債	せんじこくさい	戦争遂行中の資金調達のため発行された国債(国の借金)
注66	etwas		ドイツ語:あること・あるもの・何か
注67	従兵	じゅうへい	1.将校に専属して身の回りの世話をする兵。将校当番兵。 2.付き従う兵卒。じゅうひょう。
注68	金鷄勲章	きんしくんしょう	武勲抜群の軍人・軍属に与えられる最高の勲章。
注69	ないませ		種々のものを混ぜ合わせて一緒にする。
注70	標榜	ひょうぼう	主義・主張などはっきりと掲げ示すこと。
注71	拙吟	せつぎん	下手な詩歌。自分の詩歌をへりくだって言う。
注72	擱筆	かくひつ	文章を書き終える。
注73	隣組	となりぐみ	昭和初期、戦時体制強化のため、町内を隣組として組織し、助け合いを前提としながらも相互監視や共同防衛活動に作用した。
注74	海拉爾市	はいらるし	中国東北部(旧満州)の北部、ロシアとモンゴルに近い。
注75	曳光弾	えいこうだん	弾道がわかるように光を発しながら飛ぶ弾丸。
注76	興安嶺陣地	こうあんれいじんち	中国東北部の山脈。「こうあんれい」は中国語では「シンアンリン」と発音する。「大シンアンリン」と「小シンアンリン」がある。
注77	齊々哈爾	ちちはる	中国東北部(旧満州)の中央付近にある都市。
注78	糧秣	りょうまつ	兵隊の食糧と軍馬のエサ。車の少ない日本軍は馬を大事にした。
注79	掻い巻	かいまき	小型で綿を薄く入れた袖付きの夜具。掛け布団の下に毛布のように用いた。
注80	少國民	しょうこくみん	少年少女の事。第二次大戦中、小学校が国民学校と言っていた頃に用いられた。
注81	満州事変		昭和6年、旧満州奉天(ほうてん)市郊外の柳条湖(りゅうじょうこ)で、日本の関東軍が南満州鉄道の線路を爆破した事件。その後関東軍は全満州を占領、日中・日米等との戦争に発展した。
注82	小学校		尋常小学校のこと。尋常小学校は明治13年に設置された。義務教育の4年とその上に任意の4年があった。明治40年に6年と2年に改変。更に昭和16年国民学校に改称統一される。

注	用語	読み	解説
注83	盧溝橋事変	ろこうきょうじへん	昭和12年、北京郊外「盧溝橋」付近で日中軍が衝突した事件。日中戦争の発端となる。
注84	乃木神社		日露戦争の英雄、陸軍大将乃木希典(のぎまれすけ)を祭神とした東京赤坂の神社。
注85	東郷神社		日露戦争時、日本海海戦でロシアバルチック艦隊を破った元海軍大将東郷平八郎(とうごうへいはちろう)を祭神とした東京渋谷にある神社。
注86	大東亜戦争		第二次世界大戦の日本の関係した戦いを「太平洋戦争」と言い、更に日本側の指導者層による呼称を「大東亜戦争」と言う。東亜は東亜細亜(ひがしあじあ)。大東亜共栄圏…脱欧米・脱否植民地と東亜諸民族の共存共栄を日本が訴えた。
注87	出征兵士		「出征」…軍隊に加わって戦地に行くこと。一般国民の兵役を指す。
注88	国防婦人会	こくぼうふじんかい	昭和7年大阪で結成された婦人団体で昭和17年には全国組織に発展。徴兵で兵役に就く兵士の送迎や戦争協力団体として活動。
注89	千人針	せんになんばり	一枚の布に、千人の女性が赤糸で一針ずつ結び目を作り、兵士の武運長久を祈って贈った。虎の絵が多かった。虎は「千里行って千里帰る」ということわざから。
注90	陰膳	かげぜん	旅(この場合戦争)等の際、道中の飢えや無事を祈って留守宅に供える食事(膳)
注91	ニミッツ		第二次大戦時のアメリカ海軍太平洋艦隊司令官。対日作戦の海軍指揮官。
注92	マッカーサー		米国陸軍元帥。対日作戦総指揮官。日本占領軍最高司令官。
注93	真珠湾の戦闘		昭和16年12月8日、ハワイ真珠湾の米軍太平洋艦隊基地に日本海軍が加えた奇襲攻撃を真珠湾攻撃と言う。その戦いを真珠湾の戦闘と表現
注94	暗渠	あんきょ	給排水目的の地中水路のうち、小規模のもの。
注95	艦砲射撃	かんぽうしゃげき	軍艦が装備する砲による陸上への射撃。
注96	陸稲	おかぼ	畑に栽培される稲。収量は少ない。
注97	教鞭	きょうべん	昔の先生は、時にムチで生徒をたたきながら厳しく教えた事から、先生になる事を「教鞭をとる」と言うようになる。
注98	ゲートル		60周年誌:ズボンの裾を押さえて足首から膝まで覆う包帯状の厚布。
注99	在郷軍人		一定期間訓練を受けた予備兵。普段は在郷にあって、有事の際招集される。
注100	出征軍人		「出征」…軍隊に加わって戦地に行くこと。一般国民が軍人となること。
注101	海軍特殊潜航艇	かいぐん とくしゅ せんこうてい	魚型水雷を魚雷と言う。通常魚雷は弾道にエンジンとスクリュウが付き、水中を自助潜航し敵艦に命中させる。特殊潜航艇は人間が運転し命中精度を上げた「人間魚雷回天」がそれで、海の特攻隊としてもはやされた。同様に有人誘導ミサイル「桜花」、グライダー型「神龍」、潜水艇「海龍」、潜航待ち伏せ自爆地雷「伏龍」、又ベニヤ制高速特攻艇他いくつかある。連合軍による「回天」のコードネームは「BAKA BOMB」(馬鹿爆弾)
注102	海兵		旧日本海軍の兵士。「海軍兵学校」の略。
注103	陸士		旧日本陸軍の兵士。「陸軍士官学校」の略。士官…軍隊で将校(少尉以上)に相当する階級。
注104	新型爆弾		広島・長崎に投下された「原子爆弾」を従来と違うと受け止め、当時の人が表現。
注105	三和土	たたき	平に固めた家の土間。
注106	省線		JRの旧称。鉄道省の管理した鉄道なので「省線」と呼ばれた。

注	用語	読み	解説
注107	長沙作戦	ちょうささくせん	「長沙」…中国湖南省の省都。長沙で展開された日本軍の作戦。
注108	空吠	あきかます	農作物をいれるもの、葉っぱで編んである。またワラで作った入れ物。
注109	葛西橋	かさいばし	東京都江戸川区と江東区をつなぐ荒川をまたぐ橋。
注110	市電		市営の路面電車。現在10都市で走っている。東京、京都、札幌、広島、熊本など。
注111	砂町		現在 東京都江東区北砂1丁目付近。
注112	小名木川		江東区を流れている人口河川(江戸時代に作った河川)
注113	サイパン島守備部隊の玉砕		アメリカ合衆国北マリアナ諸島サイパンでのアメリカ軍と日本軍との戦いで最後の万歳突撃を敢行し玉砕して果てた。
注114	和庄	わしょう	広島県呉市和庄登町。
注115	阿鼻叫喚生地獄	あびきょうかん いきじごく	死んで地獄におちた亡者が「阿鼻地獄」「叫喚地獄」で責められ、泣き叫ぶことから「生きながら地獄の苦しみを受けている」様を言う。
注116	可部線	かべせん	JR西日本の地方交通線広島市西区の横川駅から広島市安佐北区可部駅に至る線。
注117	日清・日露戦争		日本と清(中国)の戦争。海戦は黄海、陸戦は平城から遼東半島での戦争。日本とロシアの戦いで朝鮮の利権をめぐる戦争。
注118	南佐久		長野県佐久郡を南と北佐久郡に分割したことで発足した郡。
注119	疎開の種類		疎開と半強で使用される場合はほとんどが学童疎開を指す。政府は縁取者への疎開を奨励したが、学校毎の集団疎開(学校疎開)も多く行われた。
〃	集団疎開		太平洋戦争の惨禍の悪化に伴い、東京・大阪をはじめ全国13の大都市、工業都市の学童を半強制的に地方へ疎開させた。
〃	学童疎開		縁取のない学童は子校や子牛ごとに方言の旅路や守などに集団で疎開する。全国で100万人の学童が対象になった。昭和19年夏から終戦まで。
〃	縁取疎開	えんこ	田舎に親戚などの縁取のある学童が単身または家族とともに疎開する。
注120	バラック		災害後の焼け跡などに建設された仮設の住宅。
注121	竹の子生活		竹の子の皮を一枚ずつ剥ぐように、身の回りの衣類、家財などを少しずつ売って食いつなぐ生活。
注122	久留米		福岡県久留米、福岡県の南部、筑後平野に位置する筑後川のほとり。
注123	ロッキード		アメリカ製の戦闘機、日本製のゼロ戦と交戦した。
注124	十里行軍		軍隊の40キロ走行、現在は学校などでの行事。
注125	風船爆弾		太平洋戦争(大東亜戦争)において日本陸軍が開発した気球に爆弾を搭載した兵器。
注126	大牟田		福岡県大牟田市。福岡県の最南端の市、石炭資源を背景とした石炭化学工業で栄えた市。
注127	特攻服		太平洋戦争の末期に日本軍が編成した生還を期さない体当たり攻撃部隊の着た軍服。
注128	召集令状		戦時中の日本の兵役制度において在郷軍人を兵として、召集するために用いられた命令書。紙の色が赤だったので俗に赤紙と呼ばれた。
注129	デカンショウ		木製の高ゲタ。
注130	レクイエム		ラテン語で「安息」を意味し、「死を悼む」「追悼」「鎮魂歌」に転化。

注	用語	読み	解説
注131	抑留地ウランウデ		ロシア連邦中央シベリアのバイカル湖の東にあるブリヤード共和国のウランウデ収容所。
注132	留萌市	るもいし	北海道留萌市。
注133	イルクーツク収容所		ロシア連邦、中央シベリアのバイカル湖の西にある都市イルクーツク第一捕虜収容所。
注134	尾崎 号堂	おざきがくどう	尾崎行雄(1858年－1954年)の号。「憲政の神様」「議会政治の父」と呼ばれる。
注135	赤トンボ		練習機を赤や黄色の派手な色に塗ったので、赤トンボと愛称で呼んだ。
注136	国民学校		1941(昭和16)年の国民学校令に基づいて設立され、それまでの尋常小学校、高等小学校、尋常高等小学校はすべて国民学校とされた。
注137	蛸壺	たこつぼ	自分の身を守るために入る一人用の壕。たこを捕獲する目的で漁師が使う壺で素焼きの陶器。
注138	円匙	えんぴ	シャベルのこと
注139	江田島		広島県江田島、海軍兵学校があること。(現海上自衛隊第一学校)
注140	古鷹山	こたかやま	広島県江田島の名峰(392メートル)、海軍兵学校を見渡せる展望山。
注141	三方原飛行隊	みかたがはら	静岡県浜松陸軍飛行学校の飛行隊。現在は航空自衛隊浜松基地の部隊。
注142	上陸用舟艇		郡報艦艇の一種で上陸作戦時に歩兵や装甲戦闘車両等の上陸部隊を乗せて上陸する小型の船。
注143	知覧	ちらん	鹿児島県薩摩半島の南部中央にあった町。
注144	邀撃	ようげき	迎撃。攻めてくる相手を迎え撃つこと。
注145	紀元節	きげんせつ	神武天皇即位の日を紀元の始まりとして制定した祝日。現在の建国記念日。
〃	天長節	てんちょうせつ	在位中の天皇の誕生日を祝う日。現在の天皇誕生日。
〃	神嘗祭	かんなめさい	天皇がその年にとれた新しい米を伊勢神宮に奉り、豊穡を感謝する祭。
〃	新嘗祭	にいなめさい	天皇がその年に取れた穀物を神々に勧め、自らも食べ、収穫を感謝する祭。
注146	闇市・闇屋・闇米	やみいち やみや やみまい	統制経済のため、非正規に商売が行われた。市場を闇市、闇の商品を扱う業者を闇屋、特に米は厳重に統制されたため、飲食店は闇の米を必要とした。
注147	ズルチン		かつて用いられていた人口甘味料の一種。
注148	サッカリン		かつて用いられていた人口甘味料の一種。
注149	点け木		マッチの代用品。木を薄くはがし、経木のようにして先に硫黄がつけてある。板状の「つけ木」を細く割って「種火」から火をおこしたり移したりする。
注150	神勅	しんちよく	神道用語。神の与えた命令。又その文書。天照大神が「子孫が治める地」とした。戦中において、皇国史観や国体論と結びつけられて、政府公認のイデオロギーを支える基盤のひとつとして用いられた。
注151	天照大神	あまてらすおおみかみ	日本の神様の中で最高の地位を占める、太陽の神様。
注152	天孫民族	てんそんみんぞく	戦前に使われた、大和民族の別称。天から神が降り立った神話に由来する。
注153	矜持	きょうじ	自分の能力を優れたものとして誇る気持ち。自負。プライド。「きんじ」とも読む。
注154	牡丹江	ぼたんこう	①中国東北地区の吉林省・黒竜江省を流れる川。

注	用語	読み	解説
注154	牡丹江	ぼたんこう	②中国、黒竜江省南東部、牡丹江中流に臨む工業都市。鉄道交通の要地。
注155	モンペ		女性向けの労働用ズボンの一種。戦時中は普段着として用いられた。
注156	体内被曝児	たいないひばくじ	母親の体内で原爆の放射能を浴びた子ども。
注157	長崎原爆資料館		長崎での原爆投下に関する資料を取り扱った市立資料館。
注158	日支戦争	にっしせんそう	昭和12年、北京郊外の蘆溝橋(ろこうきょう)で日中両軍が衝突して始まった戦争。
注159	造兵廠	ぞうへいしょう	武器・弾薬などの製造・修理を行った、軍隊直属の工場。
注160	烏帽子岩	えぼしいわ	形が烏帽子(平安時代の帽子)に似ている岩。神奈川県茅ヶ崎市の海岸にある。
注161	南満州鉄道	みなみまんしゅうてつどう	通称、満鉄。日本政府が1906年に設立した会社。鉄道の他、多様な事業を行なった。
注162	太虎山	たこさん	中国の遼寧省錦州市にある町。戦時中は日本軍の飛行場があった。
注163	コーリヤン		中国北部で栽培されるモロコシの一種。食料・飼料、またコーリヤン酒の原料とする。(再掲)
注164	錦州市	きんしゅうし	中国の遼寧省に位置する都市。旧満州。
注165	葫蘆島	ころとう	錦州市の近くの都市。105万人の日本人が、終戦時にここから引揚船で日本に渡った。
注166	満州開拓団	まんしゅうかいたくだん	日本の国策によって旧満州に入植した日本人の農業移民。
注167	ハルピン		中国の黒竜江省に位置する都市。黒竜江省の政治・経済の中心。
注168	無蓋車	むがいしゃ	屋根がなく露天で貨物を輸送する貨車。(再掲)
注169	敗血症	はいけつしょう	細菌に感染して、症状が全身に及んだ状態。ショックを起こして死亡する場合もある。
注170	襦袢	じゅばん	下着。肌着。
注171	宮城遥拝所	きゅうじょうようはいじょ	皇居(宮城)の方向に向かって敬礼(遥拝)するための場所。
注172	支那事変	しなじへん	昭和12年に始まった日本と中華民国の間で行われた大規模な戦闘。日支戦争。
注173	第三次ソロモン海戦	だいさんじそろもんかいせん	1942年にソロモン海で行われた、日本軍とアメリカ軍との間で行われた海戦。
注174	公主嶺	こうしゅれい	中国吉林省に位置する都市。東洋一を誇る満鉄農事試験場があった。
注175	エトロフ		千島列島南部に位置する島。北方領土の中で最大の島。
注176	大泊(コルサコフ)		サハリン(樺太)の玄関となる港湾都市である。サハリン州第3の規模の都市。
注177	燕麦	えんぱく	イネ科の1~2年草で、高さ1m内外に達する。飼料作物として重要。
注178	俘虜	ふりよ	戦争で敵軍にいけどりにされた者。捕虜。
注179	孫呉	そんご	中国の黒竜江省黒河市に位置する県。旧満州。

編集を終えて く語り継ぐことの大切さく

我孫子市では二〇〇五年に「戦後六十周年平和事業記念誌」を刊行しました。今回の戦後六十五周年記念誌「我孫子から発信 平和への祈り」は記念誌としては二冊目になります。六十周年時の記念誌は、その年に行われた平和事業の記録や講演録などに多くの誌面を費やしましたが、今回の記念誌では、戦争を体験された方々の寄稿文や戦争を知らない小中学生の意見や感想、そして二〇〇六年からの広島市・長崎市平和記念式典へ派遣された市内中学生の代表のレポートをメインとし、「文集」としての側面が強くなっています。

終戦から六十五年が経過し、戦争を体験した方達も高齢となっており、戦争を伝える・戦争について考える機会は減少しています。戦争の恐ろしさ、当時の生活の厳しさ等を次の世代にきちんと語り継いでいくことを目的に本書を発行することとしました。

本書には、前作を上回る多くの方々に寄稿していただきました。今まで誰にも語ったことのない体験をお寄せくださった方、シベリアでの十一年にわたる抑留生活を語ってくださった方など、様々な体験を寄せていただきました。この場を借りてこの記念誌に寄稿していただいた方々に改めて御礼申し上げます。

本書をお読みいただいた後、戦争について、また平和の尊さについて今一度考えていただければと思います。この平和記念誌の発刊が、平和の一助となれば、大変ありがたく思います。

2010年度 戦後65周年記念誌

発 行 我孫子市

〒270-1192 我孫子市我孫子 1858 番地

電話 04-7185-1111 (代表)

編 集 我孫子市平和事業推進市民会議 (編集責任者 水津洸一郎)

2011年2月発行

